

中央検査部

中央検査部技師長 関本 雅彦

現在、中央検査部は総勢38名(育児休暇中2名含む)で検査業務を行っています。大きく分けると3つ、検体検査部門(病理検査も含む)、診療生理検査部門、健診生理検査部門に分かれます。各部門の業務を紹介致します。

検体検査

5F中央検査室では8名の臨床検査技師が血液や尿などの検体検査を担当しています。検体数は外来・入院患者、ドック・健診受診者を合わせて1日に400~500名分が搬送されてきます。検査はハイエンドの検査機器で測定し、迅速に結果報告ができるように努めています。さらに正確な検査結果を報告するため、日々、各検査機器のメンテナンスや精度管理を実施しています。また、日本医師会、大阪府医師会、日本臨床検査技師会、日本総合健診医学会などの外部団体の精度管理調査にも参加し優秀な成績を修めています。

主な検査項目

■生化学検査 (LABOSPECT008 : 日立ハイテック)

LD、AST、ALT、 γ -GTP、LAP、ALP、CHE、AMY、P-AMY、CK、CK-MB等の酵素項目
TP、ALB、ZTT、T-BIL、D-BIL、T-Cho、HDL-Cho、LDL-Cho、TG、CRE、BUN、UA、Na・K・Cl、Ca、Mg、Fe、無機リン、CRP、h-CRP、ASO、RF、など約40項目

■免疫検査 (ルミパルスPresto II : 富士レビオ)

SphereLight : Wako
HBs抗原・抗体、HCV抗体、HIV抗体、TP抗体、RPRなどの感染症検査
AFP、CEA、CA19-9、CA125、PSA、シフラなどの腫瘍マーカー
TSH、FT3、FT4の甲状腺検査
IRI、NT-proBNP、ピロリ抗体、ペプシノーゲン

■血糖検査 (GA08Ⅲ : A&T HLC723 G11 : 東ソー)

グルコース、HbA1c

■血液検査 (XT-5000 SP-1000i CS2100i : シスメックス)

赤血球数・白血球数・Hb・血小板などの血球計数検査と血液像の形態検査
APTT、PT、Fib、Dダイマー、AT3、出血時間などの凝固検査



■ **一般検査** (クリニテックノーバス:シーメンス
UF-1000i:シスメックス)

尿中蛋白や糖などの尿定性検査と尿沈渣検査(尿中有形成分)、便潜血反応検査
腹水、胸水、関節液、髄液、精液などの一般検査

■ **輸血検査** (AUTOVUE:オーソ)

血液型と不規則抗体スクリーニング、輸血時の交差適合試験
血液製剤の発注及び管理



病 理 検 査

5F病理検査室では非常勤の病理医と3名の臨床検査技師が担当しています。手術で摘出した臓器や内視鏡検査で採取された組織、また喀痰、尿、婦人科分泌物、腹水、胸水、各種捺印材料が検査材料となります。

■ **細胞診検査** (1400件/月)

炎症細胞や異型細胞を顕微鏡下で検査し、診断の補助的役割をする検査

■ **病理組織検査** (260件/月)

様々な方法で採取された組織の病変部を検査技師が標本作製し病理医が顕微鏡下で観察し診断します
これが病気の確定診断となるため極めて重要な検査

生 理 検 査

4F生理検査室(超音波専門医制度 研修施設指定病院)は循環器医師(トレッドミル検査)1名と8名の臨床検査技師が担当しています。安静心電図、マスター2階段テストおよび歩行などによる運動負荷心電図、心電図RR間隔変動は随時検査できます。その他の検査は基本的に予約検査として行っていますが、他院より紹介で来られた方、健診より精査目的で来られた方など、当日受診されて担当医が必要と判断した場合は、当日申し込み検査として対応しています。

実施している検査項目

■心電図検査 (1000件/月)

安静時心電図

負荷心電図 (マスター負荷心電図・200m歩行負荷心電図・トレッドミル運動負荷)

一定の運動により心臓に負荷をかけ、その前後の心電図を記録

24時間ホルター心電図

日常生活中心電図を長時間記録する検査

心電図RR間隔変動

自律神経機能検査

■24時間血圧測定 (10件/月)

夜間就寝中の血圧 白衣現象の診断、降圧薬服薬時間の調整などに有用

■血圧脈波 (20件/月)

四肢の血圧を測定 動脈硬化の検査

■呼吸機能検査 (140件/月)

肺活量 (VC) と努力性肺活量 (FVC) を測定 呼吸機能のスクリーニング検査

■超音波検査 (1000件/月)

心臓超音波検査

心臓の形態 (大きさ、壁の厚さ、弁の状態など)、動態、機能評価

頸動脈超音波検査

総頸動脈、内頸動脈などのプラークの有無や壁の状態、血流を観察

全身の動脈硬化と相関があり、動脈硬化の管理に有用

上肢・下肢血管超音波検査

下肢静脈 (深部静脈血栓症、静脈瘤) や上肢・下肢動脈 (慢性および急性に生じる閉塞性疾患、動脈瘤など) の観察

腹部超音波検査

肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓などの上腹部臓器 胃、小腸、大腸、虫垂などの消化管、可能な範囲で子宮や卵巣、膀胱など下腹部も観察

腎動脈ドプラ検査

腎動脈の狭窄の有無 腎血管性高血圧症の発見に有用

乳房超音波検査

主に乳がんを検索 のう胞や良性腫瘍も観察

甲状腺超音波検査

甲状腺内の腫瘍を検索 びまん性甲状腺疾患での甲状腺の状態も観察

■皮膚灌流圧測定SPP (10件/月)

皮膚の微小循環血流を評価



健診生理検査

健康管理センターは、6階の人間ドックフロア（超音波診断装置5台・心電計2台・スパイロ2台）と8階（超音波診断装置5台・心電計2台・スパイロ1台）・9階（心電計2台）の一般健診フロアに分かれており、健診生理検査業務に従事している臨床検査技師は17名と中央検査部では最も多い部門です。業務内容は、超音波検査（腹部2500件/月・乳房850件/月・頸部110件/月）、心電図検査（5000件/月）、呼吸機能検査（1200件/月）を行っています。さらに計測室の聴力検査、腹囲測定業務にも携わっています。また受診者さんへ送付される結果報告書の最終チェックも行っています。

最後に

中央検査部は受診者さんに安全で安心できる正確な検査結果を迅速に提供するために、積極的な院内勉強会の実施、また学会・講習会などへの参加で、最新の医療技術取得や機器の管理を行っています。さらに資格認定の取得や学会への演題発表などに日々研鑽を積んでいます。平成30年度からは大学からの学生実習の受け入れが決まっています。今後は臨床検査技師の育成にも力を注いでいきたいと思っております。

中央検査部資料

■各学会等の資格認定

- 細胞検査士……………2名
- 緊急臨床検査士……………6名
- 二級臨床検査士……………8名（臨床化学1名、免疫血清学1名、血液学1名、循環生理学3名、病理学2名）
- 超音波検査士……………17名（超音波専門医制度 研修施設指定病院）
（消化器15名、循環器9名、体表11名、血管2名、健診2名）
- 乳がん検診 乳腺超音波……………A評価 3名
- 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師……………1名

■外部団体サーベイ結果（平成28年度）

- 日本医師会 99.0/100点（D評価なし）
- 日本臨床検査技師会 100.0/100点（D評価なし）
- 日本総合健診医学会 A評価

■各種学会への演題発表（平成28年度）

- 日本人間ドック学会 1演題
- 日本総合健診医学会 1演題
- 日本超音波医学会 2演題

